
グレゴのおいしいレストラン

三豊和秋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グレゴのおいしいレストラン

【Nコード】

N8636R

【作者名】

三豊和秋

【あらすじ】

武器商人から命を救われたボス・ドニミクは次の日、日誌を書いていました。

リ「ねえねえ、ボス・ドミ尼克？何してるの？」

ド「日誌を書いています、今日一日の出来事を書いています。」

リ「今日特に何もして無いよ、ねえ！グレゴそでしょ！」

グ「…うん、何も…」

ド「これは店舗日誌の前身です。 我々の未来のために書いている
のです。」

リ「店舗日誌？ ウシコシコシコ。 イイね！それスゴい！！」

リ「ねえ？グレゴも書くの？ 店舗日誌？」

ド「もちろんです・・・グレゴもリリアヌも。 替わり番です。

「
リ&グ「ひょ？&・・・ン？」

グレゴのおいしいレストラン（飯店舗）

（前書き）

これはヨルムンガンドに登場する ボス・ドミニク リリアーヌ
グレゴワールの三人が主役の二次小説です。

なのでココ・ヘクマティアル等、メインキャラクターはほとんど登
場しません。

ご了承の上、お楽しみください。

グレゴのおいしいレストラン（飯店舗）

〈夢見る店舗日誌〉

一日目

ドミニク

担当

本日より、日誌をつけることにしました。

俺らの新たな夢、食堂の経営のための前準備の一環です。

出店の際には帳簿をつけなければなりませんし、
そのような作業に慣れておかないといけません。

リリアーナは随分嫌がってたが、お構いなしです・・・
本日から順番で書いてもらいます。

それと、先日の余談もかねて、少し。

ココ・ヘクマティアルとその私兵・・・
思い返しただけで最悪だ、吐きそうだ。

我々三人は“元”殺し屋、しかし、どうにも最近調子が芳しくなく（主に俺が）、

この仕事に対して先行きが見えなくなっていた時、
へあるへ仕事が来たのでした。

殺し屋に仕事の依頼、　つまり荒事です。

ターゲット　＜武器商人　ココ・ヘクマティアル＞

一番目を引いたのは、そのギャランディの高さでした。
武器商人一人を殺る金額ではない・・・

依頼を受け、情報屋からネタをもらうと、そこには納得の内容。

ターゲットの護衛、元特殊部隊出身から警察の対テロ特殊部隊、マ
フィアまで・・・

どうなっているのやら、さっぱりです。

困難な仕事を引き受けてしまった、「強烈」な最悪です。

そして隣で嬉々としているリリアーナと、いつもと変わらぬグレゴ
の姿。

まあ、夢見るレストラン経営のためです

やるしかない。

そして 大負け 酷いものです。

グレゴとリリアーナは奴らのアジトで拘束され、
俺は夜のハイウェイウ、壊された車にスライドストップの拳銃、

目の前には、最終目標＜メインターゲット＞の武器商人と、
五〇口径をこちらに向ける、第一目標のウゴ君・・・

はい、映画でよくあるワンシーンですね、
主人公に撃退される殺し屋 「誰に頼まれた？」 こう聞か
れます。

そのあと殺し屋は自害したり、なかなか口を割らずに、あっさり殺
されます。

ええ、同じでしたよ、
「依頼主を言えば逃してやる・・・」

喋りましたよ。 依頼主を。
命が大事です。 何事にも換えて。

その後、無事に解放されたりリリアーナとグレゴと合流。

「失敗したね、今回のお仕事・・・」
「・・・レストラン・・・」

リリアーナの一言、
グレゴワールの一言、

命と仲間があり、金はないが目標がある、
結構じゃないですか。

我々三人でレストランの経営、
その足掛かり、第一歩。

始まりです。

グレゴのおいしいレストラン（第2飯店舗）

（未出店店舗日誌） 二日目

担当 グレゴワール

しい・・・

日替わりで書き回すら

今日はオレの番

タイピングは苦手なので、短くしていきたい。

――店を出す――

そのことについて、今日一日三人で話し合った・・・

ボス・ドミニクはあの時・・・

「俺とグレゴは客前に出れる顔じゃないから給仕はお前がやるんだ。」

トリリアーヌに言っていた。

うん、
その通り

だ・・・

ン・・・？

それじゃボス・ドミニクは？

何をするんだ？

そう思っていると・・・

「えい、　　まず我々三人がそれぞれ担当するであろう、

配置や作業を考えましょう。

」

と、ボス・ドミニクの声・・・

だったか・・・

はやとちり

「まずグレゴ、
クですね。

あなたは調理担当、

メインのコツ

はい決定。」

「・・・うん・・・」

と返事する。

「次、リリアーヌ。」

「ハア~~~~い!!」

元気で大きな返事、

「あなたは主に給仕や接客、会計などをしてもらいます。

いいですね

」？

「ウシコシコシコシコシコシコ

#彼女の笑い声#」

リリアース、

すごく嬉しそう。

「こうゆうのやった事無いから、
今からでもスゴく楽しみ！！」

「プフウー！！

ウシコシ

コシコシコ！！」

うん、

楽しそう・・・

そして、

気になるあの事・・・

「俺は・・・

店の経営者として・・・」

・・・？

言葉が途切れた・・・

・

「店の営業許可の申請や、出店場所の確保や、

伝活動、

資材、食材の調達、

出店前後の宣

厨房での皿洗い、

ゴミ出し・・・

営業活動と裏方全般を

しましょう。」

ボス・ドミニク。

いろいろ考えてくれていた・・・

ボス・ドミニクの言う仕事は、もちろん全部必要で、

あまり楽しくなさそう・・・

でも、ボス・ドミニクが引き受けたのなら、

心配ない。

「あと食材の調達には、グレゴ

すよ。もちろんあなたも一緒に行きますよ。」

料理長なんですから。」

うん・・・

もっとも・・・

だ・・・

「あとリリアーナ、
集客にはあなたが活躍してください
ね。」

「フンフン、
ええ？なんでー？」

「店の前に活発な女の子がいたほうが、
見栄えがするでしょう。」

お店のためです。
頑張

ってください。」

リリアーナも・・・納得しているみたい・・・

一日話して、もう夕暮れ時、

朝起きて、

ドライフルーツつま

んで、

昼は、

簡単なスープで済ませて・・・

みんな空腹・・・

夕食、

ちょっと豪華

を作って、

食べた。

気に入っているみたいだ・・・

安心
した。

今日一日で、大体の形はできたみたいだ。

今日の日誌

終わり

グレゴのおいしいレストラン（第3飯店舗）（前書き）

サブタイトルの「第2、第3飯店舗」は話数を指しています。
作中の出店数ではありません。
注意してご覧下さい。

グレゴのおいしいレストラン（第3飯店舗）

私たちの店舗日誌　　三日目

担当 私！

？訂正 リリアーヌ

ハ、い、ちゃんとしまーす。

こういう作業も初めてなので、とっても楽しみです！

グしんどい・・・

タイピン

えーと、まず昨日の晩ゴハンの話から。

もうすつつつごく、おいしかった。

あんまり食材も無かったはずなのに、グレゴがグレゴの部屋から持ってきた保存用のお肉とか、お手製の調味料とか、

（グレゴの部屋は私たちの家替わりのキャンピングカーの屋根裏に

あたる場所にあって、

グレゴの持ち物全般が入っています。

・中をあんまり見たことがない。）

・

あとお手製のソース？！

あれがすごくおいしかった！

お肉にもお野菜にも合うの！！

お野菜がベースで・・・ アセロラかな？ フルーツも入っ

てた。

あれをレストランでも出すのかな？

きっと売れるよ！！！！

人気爆発だよ

！！！！

昨日の晩ごはんの事だけ書きちゃってる・・・

先に進めるね。

今日は二日ぶりに車で移動しました。

街の郊外から、大きな街の中心へ。

お買いものかな？

基本的に？

お金あんまり無いけど・・・

それぞれ別行動をとってた。

グレゴはよくホームセンターとか、日用品売り場に行くね。

お料理に使う器具とか、

”仕事”に使う道具とか。

よく見てるね。

あと、マーケットに行って来たみたい。

それで帰っていた時、両手に袋持ってた。

右手で食材の袋持って、

左手にチェーンソーの換え用の歯を提げてた。

グレゴのチェーンソー持った立ち姿はカッコいいもんね。

お世辞じゃないよ！
ねえ、カッコいいもんね、でしょ？
グレゴ！

ボス・ドミニクは・・・分かんないな。

ない・・・

ボスが一人ですることなんて

思いつか

情報収集かな？

うん、私は・・・

てた。

いろいろなところで・・・買い物し

薬局とか行って、消毒液や包帯とか、縫合糸とか、

足りしてるものとか、
少なくなっていたり、無くなってい

新しいタオルとか、石鹸とか、みんなが使うものとか
を買ってた。

二人とも、私を助けてくれたりしてくれるから、

私も、二人を助けてあげてるし、

みんなで協力して、
協力して協
力して！！！！

三人でお店を出す！！

目標！！

それが私たちの

決定！

もう決めてましたよ・・・）

ボス・ドミニクより、

慣れてないタイピングで、もう疲れちゃったよ
←
←

アレ？

グレゴもタイピング苦手とか言ってたけど、

私よりもかなり早く終わらせて
たよね！

も～～～何ソレ、
ム～～としちゃう！！

今思ったけど、
私たちってもう殺し屋やめたんだよね。

だったら、包帯とか縫合糸とか、
いるかな？

要ります。

のとき、無くては困ります。

とう
リリアーヌ。

ボス・ドミニク

今日の日誌、これで終わり！

さーい！

おやすみな

もしも
ありが

「最後まで終わっていないのに途中でほったらかさないでください。
日誌の記録がまだですよ。
リリース。」

より、

ボス・ドミニク

三日目終了」

グレゴのおいしいレストラン（第4飯店舗）（前書き）

後書きは気にしないでください。

本編の内容とはあまり関連性はありません。

グレゴのおいしいレストラン（第4飯店舗）

〈未来の店舗日誌〉

四日目

担当 ドミニク

一周しましたね。

とりあえず、二人とも どんなものかは分かっていただけましたかね？

・・・・・・・・・・・・・・・・

返事は帰ってきませんでしたがお構いなしです。

続けますよ、

勿論。

我々は現在、エジプトを北西に向けて移動中です。

はい、キャンピングカーで。

まだ店と呼べるものを出せてません、 ある意味、当然とも
思われます。

理由を挙げるならば、

まず、我々はアフリカという環境、この国の土地柄や風土、そこに住む人が何を求めて、何に金を出すか？

店を構える前に知っておきたい重大な要素を知りません。

非常に大きな問題です。

そしてこの問題を解決するには、大きな壁が二つあります。

簡単に言います。

”時間”と”言葉”です。

どのようなものが売れるか？

どのようなものが求められているか？

そういうことは、事前収集とその時の流行りなんかで、

おおよそ分かります、

いえ・・・分かる筈です・・・

しかし、企業のような情報収集能力も無く、

金も人も無い三人組の我々では、いたずらに時間をくってしまします。

時間の経過は立ち往生、

すなわち、前進しているとは言えません。

貴重な資金も、無駄になっていくでしょう。

次に、言語の壁です。

ここ、アフリカの大地では、人がいれば、流れができ、物が行きかいます。

（世界中どこでもそうだと思いますが・・・）

その中で、

様々な文化と、幾多の言語が混じり合っています。

その流れの中で、新たな門出として我々が進出していくには、アフリカの言葉を知らなさすぎるというのは、只の逆境以外の何物でもありません。

接客しようにも、英語が通じない、出店先の名前が読めない、書けない、

そんなことでは まともな店をかまえないでしょう・・・

という判断から、 はれてアフリカから脱出することにしました。

リリアーナは、「屋台の一つや二つぐらい出してもいいじゃん！」
とか言っていましたね。

良い考えだと思いますね。

積極的な意見は嬉しくとっておきます。

新たな土地では、出店から出発しましょうか？

とにかく、ヨーロッパ方面へ、向かいたいと思います。

これは俺個人の、私的な考えですが、

ほんの50〜60年前まで、ここはほぼ全土が植民地で、広大な砂漠と、同じくらい広大な自然と、

ハンターがライフルで狙う野生動物しか売りが無い土地でした。

しかし、

今では急速に開発が進む国。

油田、宝石、希少鉱物で輝く人々。

紛争、内乱、混乱で国の体裁が成り立たなくなった国。
飢餓と病気で苦しむ人々。

あまりに多くの問題が取り残されてきたこの大地。

アフリカの土地には混沌が横たわっています。

ビジネスとしてなら、

安定した土地と人がほしい。

無茶はあまりほしくない。

無茶をしたくないのも事実だ。

それとこの土地の水は俺の体が受け付けないのだ。

最近調子が悪い・・・

ここはエジプト、 アフリカの中でもトップに立つ経済国で、
水道水の質がこのクラスなのだから、他の国のことなんか、考える
だけで最悪だ・・・

煮沸した水ならいけるか？ と試してみたが、どうにも変わらずじま
いで、無駄な光熱費がかかるし、

ミネラルウォーターを買おうとしても月々の生活費がかさんでしまっ
ただけだ。

水だけでこんなに問題が山積みだというのに、まだまだ、壁だ、問
題だ、が出てくるのは目に見えているというものです。グレゴに聞
いてみると、やはりそうい＊＃\$5

ボス・ドミニクがこの後暴走したため、強制的にやめさせたよ☆

今日の日誌、おしまい。

b y リリアーヌ

グレゴのおいしいレストラン（第4飯店舗）（後書き）

あまり具体的なことは分かりませんし、書けません。

遠い国の出来事と思って聞き流すのも、あなた次第です。

世界中で、10歳に達してもいない子供が、生きるために危険な仕事をしたり、

アサルトライフルを手に取り、戦っているかもしれませぬ。

アフリカという土地に赴いたことはありません。

なので、偉そうなことも、テレビに出ているような人の言葉をかりて喋ることも、おそらくできません。

ただ、知る機会があれば、少しでも知ろうかな、ということをしていただけたら 幸いです。

知らなければ、行動できません。

次に動くには、まず知ることが重要だと思います。

グレゴのおいしいレストラン (第5飯店舗) (前書き)

グレゴは以前に比べてよく書き込んでいます。
日誌の作業に慣れてきたようです。

グレゴのおいしいレストラン（第5飯店舗）

（未開店店舗日誌） 五日目

担当 グレゴワール

今日は一日中、車での移動だそうだ。

一日かけて ゆっくり書こうと思う・・・

一朝食前！

朝目覚める。

いつものようにボス・ドミニクは起きていた。

ミネラルウォーター片手に持ってた。

またいつものように、リリアーナが起きだしてきた。

いつも髪は・・・面白いことになっている。

うん、こう書いてたら、彼女に怒られそうだ。

朝食は大体 ドライフルーツを食べる。

だいぶ少なくなってきた。

買い足さなければ。

栄養があり、かさばらず、日持ちがして、糖分が取れる。
利点が多い。

しかし、

炭水化物が取れてない、
う。

バランスはよくないと思

ー朝食後ー

車で移動中、あまり書くことは無い。
車内で二人が会話してた。

「ねえねえ？　ボス・ドミニク？」

「はい？」

「私たちって、殺し屋、辞めちゃうんだよね。今私たちが持つてる
武器？」

あれっ

てどうするの？」

「ああ、そのことですか？」

ボス・ドミニクはどこか他人事。

「はい、ほどほどに気にはしていたのですが、どうしていいか持て
余していました。

あなたはどうしたいで

すか？　リリアーナ・・・」

「ふぬうう・・・」

まあ使えるんだか、このまま持ってもいいんじゃない？」
そんな答え。

彼女らしい・・・

「うーん。　じゃあそうしましょう。」

やけに淡白な答え。

ボスらしくない・・・のかな？

そんなボス・ドミニクを見て、リリアーナが笑い転げてる。

彼女らしい・・・

それと・・・銃を積んだままで　国境を越えていくのは、どうなのだろう？

（昼食頃）

どうにも、　暑くてけだるい。

そんな環境だと思う。

リリアーナは退屈してたようだ。

先ほど、破棄するかしないかで話してた、彼女の銃、ストックオフの散弾銃、を、おもむろに取り出し、分解して、整備、点検している。

ガンオイルの匂いがしてきた。

それにつられてみる・・・

自分の棚から、

『グレゴは自分の荷物置き場、部屋のことを”棚”と呼んでいます。』

「ボス・ドミニクより

「チェーンソー」

電動鋸を持ってきて、分解して、整備、点検をし始めた。
歯の交換もおこう。

ボス・ドミニクはこちらを見て、

「二人ともなんですか？ 前の”仕事”を続けるつもりですか？」

「勘弁してください。そんな雰囲気を出すの！」

ボス・ドミニクのツツコミがやってきた。

昼食は、食べる時、食べない時とあるけれど、今日は食べた。
暑いときは、食べないといけない。

外装にはで、《パンの缶詰め》と書いてあるそうだが、読めない・
非常時の時に食べるそうだが、
保存の期間がどうのこうのと、ちょうどいい穀物が無かったので、
食べることにした。

保存食とは思えないふんわりとした舌触りで、レーズンが入っている。
る。

うん、おいしく頂いた。二人も、気に入っているみたいだ。

ボス・ドミニク

ほんとはただ食べたくて・・・

（夕暮れ時）

日が落ちてきた頃だ。

今日一日、日記を書きながら、昼寝して、レストラン用のメニューをぼつぽつと、考えてみた。

浮かびはするものの、

ここにある設備では

実現しにくいのは確かだ・・・

どうしよう

か？

ボス・ドミニクと相談してみよう・・・

それと、

今日の夕食のメニューはサラダにしよう。

冷蔵庫の野菜が新鮮なうちに、味わっておきたい。

アフリカで取れ

た野菜の味。

エビも入れてみた。

新鮮なうちに。

（夕食後）

運転が変われとボス・ドミニクが言っている。

仮眠も少しは取っているから、眠くはない。

明日の明け方には、ヨーロッパ方面に船を出す港町につけるそうだ。

車を走らせながら、メニューでも考えよう。

今日の日誌

終わり

グレゴのおいしいレストラン（第5飯店舗）（後書き）

パンの缶詰 という文字は日本語表記で書いてあるので、購入したボス・ドミニク以外は、パンのような保存食ということ以外、あまり知りませんでした。

英語表記のパンの缶詰もあるようですが、彼らが食べたのはなぜか日本語表記のようです。

今現在、大震災で被災された方々に、一刻も早い救援と復興が行われるよう、

そして亡くなられた多くの尊い命に、哀悼の意をささげます。

グレゴのおいしいレストラン（第6飯店舗）

（あとちよつと店舗日誌） 六日目

担当 リリアーナ

昨日グレゴがたくさん日誌を書いていたので、真似してみます。

「リリアーナ、そろそろ起きてください。」

今朝はそんな感じに起こされた。

昨日から目的地に向かって、ボス・ドミニクとグレゴが運転してたから、

もうすでに目的地の一手手前？についているみたい。

だからって夜明けに起こさなくなってたって・・・

起きだすとボス・ドミニク

いつもとまいったく変わってないね。

右手にミネラルウォーター装備中

それと手を洗ってるグレゴの姿。

たぶんブラックボックス※を空にしてたんだと思う。

（ブラックボックス）

トイレしたあと流れるトコ

うん、ご苦労さま、グレゴ!

そして・・・なんかアクシデントがあるような気配・・・

案のジョー、手違いがあったみたいだよ?

ボスドミニクが言うには、
ヨーロッパ方面へ向かう船はここからじゃなく、ここから出る船に
乗って、

さらに次により替えたら、あるらしい・・・
なんかあやしいよね、とっても。

「ヒュフフフ! ウシコシコシコシコ!!」

陸路から海路になっちゃったね! ボス・ドミニク!

とボス・ドミニクに言ってみたら、

前の仕事してたより、冷たくて、激しいまなざしが、

帰ってきた。

レストラン経営者には絶対必要のない目だよ! それ!
そのあと、

「あの情報屋か? 通訳か?

ギャラが足らんか？チップが・・・」

とか、ブツブツ言っていました。

ボス・ドミニクが珍しくイライラしています。

そんなに嫌かな？アフリカにいるのって？

私は嫌じゃないけどな。

グレゴはどうなんだろう？

ひとまず、船で国境を越えちゃうので、入国審査？出国審査？みたいたいのをしちやいます！

あー、えーと？

パスポート見せたら、いけたね。だいじょぶだったね。

（こんなに軽いもんなの？）

荷物検査とか無かったし。

銃あるけど・・・言わなかったけど・・・

私たちが乗る船は、

かなり、

ボロい。

小さい、ことはないみたい・・・

船はまだ出ないみたい、

これは惜しい、時間がもったいないね！

ボス・ドミニクに聞いてみた。

「ねえでかけてい」

ド「いいですよ」

はい 行動開始！！！！

長袖のTシャツ引っ張りして紫外線対策。

帽子装着、行ってきます！

飛び出してみた。

いろいろ見どころありそうだったからね！

そのあとグレゴがついて来た。

「グレゴも街歩き？」と聞いてみると、

「時間内に帰ってこさせるようにへだって。

ちゃんと帰ってくるのに・・・

ボス・ドミニクと車は船の中、

私はグレゴと街歩き！

何か悪い気がしたから、お土産買ってあげよ。

そのあと私とグレゴはとりあえず市場に、常温保存できる食べ物とか、

特産の香辛料とか、色いろ探してみた。

たぶんこれ全部、グレゴの部屋行き・・・

それから街をくるくるクルクル回ってみた。

グレゴをこっそりと、あるいはチラチラ見てくる人がいるけど、グレゴの服、いつもどうりだね。おかしいこと無いよね。

どうして見てくるんだろう？

背が高いからかな？

そのあとね、

路上で何か飲み物を売ってたおじさんがいてね、

紅茶を売ってるみた

い。

買って飲んでみると、

とてつもなく！

あまーーーーーい！！

甘さで逆に水がほしい。

水分補給できそうにない、　てかできない！　全部飲めない！

隣でグレゴがこれをクイクイ飲んだ。

こればかりは、私もグレゴをヘンな目で見てしまった。
ごめんなさい　　グレゴワール・・・

紅茶にダウンされた私は、船に戻る事にした。

飲まなきゃ、　飲まなきゃよかった・・・
日誌書きながら思い出してしまう、

トラウマ級の、あの甘さ。

喉に流し込んだ、お茶と思ったあの液体。

グレゴは、船が出る予定の三十五分前位に帰って来ました。

いろんな食材と、

ボスと私へのお土産持つて！

私、忘れてたね。

ボス・ドミニクへのお土産・・・

グレゴ、かつこいいね！

私の分まで買ってくれるなんて・・・

船は出ました。

グレゴが帰ってきてから、

約

一時間後位に。

「ココ」

ルーズだね。アフリカ

そして、私へのグレゴのお土産、

何か民族的な首飾り

グレゴ、ありがとね！

そして、ボス・ドミニクへのグレゴのお土産、

「嗚呼、キリマンジ

ヤロ」という天然水・・・

グレゴ最っ高！！！！

お昼と晩は、グレゴが作ってくれた。
個人的にはグレゴのチキンスープはごちそうだと思う。

今日の日誌はここまで！！

オツカレサマ！

グレゴのおいしいレストラン（第7飯店舗）

ゝ予定狂い店舗日誌ゝ 七日目

担当 ドミニク

アフリカの大地から離れられず：
ふらふらの船での船旅が続きます：

そういえば、この船のいたところでフランス語の表記を見ますね。

この船元はフランスで生産されて、使用年数が過ぎたりして、
こういうところに売り払われたりしたのでしょう。

ま、どうでもいいですがね。

一日に起きたことを日誌にまとめるとしても、船の中、今は車内に
居ますが、
移動してばかりのこの身では、取りまとめることも無いというもの
です。

あ、ネズミ、 それも親子・・・

当然、ネズミは車外で、船内にいますよ、

えっと・・・

意味分かります

せんね。すみません。

・・・・・・

日誌にため息はつけませんね・・・

この船、行先に着くことは確かのようにですが、

いつ着くか、というのがさっぱりな

んですね。

怒りとか焦りとかじゃなく、

もうなんか、どうにでも為れば良いんじゃないか？って気分ですね。

本日はこの船で

丸一日過ごしましたね。

船内にはまあ、軽いレストラン 程度の食事をする事が出来るみたいですね。

エリアードはあまり利用しなかったみたいですね。
私もあまり利用しませんでした。

グレゴは二回ほど足を運んでました。

何か気になる事でもあるのでしょうか？

はい、本日した事と言えば、

何故カリリアーヌとグレゴが木を彫って、彫刻の真似事みたいなのをしていました。

・・・遊びというか、時間潰しだそうです。ハイ・・・

勿論、掃除させましたよ、ええ勿論。

あとこの船の事を少し、
この船は、洋上をポツンと航行　　というものではなく、
アフリカの大地を左手に、その沿岸をギリギリ見えるようなところ
を運行しています。

あと何を書きましようか？

いけませんね

このような形で、言い出しっぺの私がだれていい筈がありません。

もう二時間ほど画面とにらめっこしています・・・

二人がチラチラ見てきますが、続けますよ、お構いなしですよ。

当然・・・です。

苦しくなってきました。

なかなかにしんどくて、体がだるいです。

”逃げ”では無いですよ。

例の水にかかわる問題から、船旅に切り替わったことも含めて・・・
色々な問題のせいで体の調子が、すこしおかしくなっただけです。

決して、日誌が辛いとかでは…

言い出しっぺの俺が、そんなこと

今日の日誌、ここまでで、、、、、、す。

ボス・ドミニクはダウンした。

約半日後に回復、

健康状態に、特に異常は無し。

心労だろうか？

今日の日誌

終わり

グレゴのおいしいレストラン（第7飯店舗）（後書き）

今回のボス・ドミニクはかなり参っています。

どうにも調子が出ない様子。

季節の変わり目は体調を崩しやすいので、皆様もどうか健康で過ごしてください。

グレゴのおいしいレストラン（第8飯店舗）

（移動中店舗日誌） 八日目

担当 グレゴワール

本日、朝食後に 港に着いた。

どうにも国を越えてきた気がしない・・・
風景的にも気候的にも似ているし、

まあ、隣同士の国だし・・・

うん、 それと、
何かしっかりしたものを食べたいところだった・・・

店で何か食べてもいいと思う。

食材を買い足して何か作っても構わない。

ただ、やっぱり・・・

調理器具の機能的に、もしくは火力や、光熱費うんぬんの問題で、

使えない食材、作れない料理などがあって少し困る、

うん、致命的だったりする・・・

結局は食べに行った・・・

チキンを使う料理がメインだった。

船でもそれなりに鶏肉がつかわれていた。

イスラムの国だからかな？

調理法も何かありそうな雰囲気・・・

気になる・・・

食材調達をしたいところだったが、

次の乗り換える船の時間が近いみたいなので、

買い物及び、自由行動が出来ないと言われたリリアーヌは、
酷く落ち込んで・・・

いたけどすぐ復活してた。

ま、最低限の買い物は何とかできたから、特に問題無いと思う。

三人で買い物中に、
前に俺が買ってきたお土産、

ボス・ドミニクに買ってあげた天然水があった。

このへんの国々にこんな感じの商品があるのだろうか？
アフリカの有名所の写真や名前が書いてある。

ボス・ドミニクは、とても鋭い眼で、この商品と、この店の店主を
射抜いていた。

怖いよ…ボス・ドミニク…

ここまでこの水に反応？もとい警戒？？しているとすると、ボス・ドミニクの体調不良の要因はコレじゃないかと、少し不安になる。

船に乗れた・・・

ゴタゴタがあつたが、どうにか乗れた。

日が傾きかけている。

出発時間

3時間は過ぎている。

半分

は俺らのせい…

乗船、出港後、夕食の用意をしているときに、リリアーナがこちらを見ている、表情は覗えない。

どうしたのだろう？

よくわからない。

「グレゴ、この国の言葉、話せるんだね・・・知らなかったヨ・・・」

て言われた。

「昔、少しかじった」と言うと、何やら首を傾げて、座席に転がった。

いつものリリアーナのようだ。

あまり自信は無いけど・・・アラビア語・・・

夕食後に、ボス・ドミニクがこの日、この日誌を無意味にした、

ある爆弾が、

「・・・今まで、頭の中から、綺麗に抜けていましたが・・・

陸路、
高速道路で移動してもよかったのでは・・・？」

炸裂した・・・

ボス・ドミニクが珍しくポカをした。

船に乗る前に考えつけば・・・と言ってもしょうがない。

今は船旅の最中で、ここは船の上。

今できる事は、ゆったり楽しむことかな・・・

今

日の日誌

おわり

グレゴのおいしいレストラン（第8飯店舗）（後書き）

エジプト、リビア、チェニジアを通る高速道路があるようです。

頭の中にあつた目的地に達するルートが直通、ということが発覚。
海路は、あるかどうか分かりません・・・

グレゴのアラビア語の語学力はあまり高くは無いようです。

グレゴのおいしいレストラン（第9飯店舗）

くまだアフリカ店舗日誌く 九日目

担当 リリアーヌ

はい、今日の日誌の前に、今日の出来事を少し書きます。

とても頭にきたことがあります。

昨日、この船の乗船前の出来事です。

持ち物の検査が入りました。

土足でズカズカと上がってきた、そんな感じです。

その辺は必要なことなのだと感じましたが、

彼らはどうやら、私たちを危険人物とみなしていたみたいです。

彼らは、小一時間、その時点で出港予定を越えていましたが、私たちの荷物のあら探しのような事をしていました。

銃を持っているとは、言っていない。

それでも・・・

彼らが、銃の隠し場所を見つける事が出来なかったのは、
彼らの仕事のレベルはそのようなモノなんだと思う。

最後に、グレゴの部屋の中のを引っ張り出してみると、言ってきました。

言われた通りにして、
彼らの思い当たるようなものを見つける
事が出来なかったようで、

少し、苛立っていました。

「これは何だ！」

たぶんそう言ったと思う・・・

それはこのあたりでグレゴが買ってきた、香辛料やハーブを入れた
容器、五個。

その中のハーブ系が入ったものを指さして言った。

「ハーブ」 グレゴが一言でかえした。

物でもない。

それ以外の何

彼らが 唐突に、 「捨てろ、この船に持ち込むな！」 と言ってきた。

うん、なんでもない、ただの葉っぱ、 お料理に使う、ハーブ。

しかし、彼らはこれが麻薬のような扱いをしてくる。
自分たちの仕事は、これで成功したと、

船が遅れたのは、すべて私たちのせいだと、
＜実はこの時、船に乗せる貨物がまだ届いていなくて、出発できないようなのでした。＞

そんな意志が、

彼らの言葉が分からなくても、

はつきり伝

わってくるようでした。

ハーブの容器は彼らに渡しました。

・・・悔しいです・・・ 何か、すごく。

彼らは最後、 グレゴのマスクの下を見せるよう指示してきました。

グレゴはちらりと見せたようです・・・

彼らはそのあと、私たちの乗船を認めてくれたようです。

アイツ等あ／

あまり、怒ってはいけません。
感情的になってはいけません。

それでは損をしてしまいますよ・・・

ボス・

ドミニク

グレゴは、どう思ったのだろう。

こんなのは聞く意味は無いし、
私、
彼らのように嫌らし
くもない。

グレゴのアラビア語のことだけを聞いてみた。
ぱっっぱっっぱっとならない答えが返ってきた。

グレゴは特に気にしてはいないみたい。

これで・・・イイのかな？

（昨日のお話）
ここから今日、
特に書くことはありません！

ゴメンナサイ：

グレゴは、今日の晩ご飯の時に、グレゴの部屋からまた食材を取り出していた。

なぜだろう？

あそこから冷気が降りてきた。 ヒンヤリした。

ていうか、ゾク

ゾクした・・・

今日の晩ご飯は、
保存用の乾燥野菜で作った、冷スープと、パン（缶詰）、
そんな感じ。

えっと、船内では火器厳禁なんだけど、
そっと静かに・・・すれば・・・イイかな？

うん、

バレてない!!

イケる!!

これで終わりたいと思います。

じゃあね。

グレゴのおいしいレストラン（第10飯店舗）

くアフリカ横断店舗日誌く 十日目

担当 ドミニク

この日誌を書き始めて、

ヨーロッパ方面へ移動を開始して、

十日目になるようです。

二人の書く日誌の中にはあまり書かれていないようなのですが、

出店に関する”事柄”や”店の経営”のことを、道中、色々話し合っているんですよ。

三人で・・・

書かれないだけで。

まあ、この日誌にもべつだん書くような事はしませんけど・・・

メモしてるから、 十分です。

今日の日誌、

船旅中ですね、

陸路という選択肢もあった船旅、九割俺の責任の船旅、

前も俺が乗船中の日誌を書いたような・・・

いや、書いてる・・・

そして、

ダウンしたんだっけ、か

船旅、以前の船は乗船時にトラブル等も無く、二人も活発にしてみましたね。

本彫り？みたいなことしてました。

・・・今回は、リリアーナがかなり、虫の居所が悪いようですね。

荷物検査？

この国内の移動で・・・

グレゴの香辛料の瓶？

この国で買ったやつじゃないか・・・

うーん、リリアーナの怒りの原因も、

それなりには分かる、

いや、主要要因はくグレゴのマスク＞なのだが・・・

おそらく、本人以上に、リリアーナは今のグレゴを好んでいるじゃないだろうか？

グレゴが変わる事を、嫌がっているんじゃないだろうか？

レストラン経営では、二つの理由でグレゴを前に出せない。

1、巨体のマスクマンが料理を出す店、というレッテルが貼られてしまう。

2、リリアーナがグレゴのマスクにどうこう言う客に敵意を向ける可能性、大。

1は、まあ話題を呼びそうで、黙認しておきたいのだが、

2は無視できない。

お客が可能性、大ではなく、可能性、Die になりかねない・・・

さすがにそんなことはないが、怒りを向けたら、洒落にならない。

話を戻しましょう。

今日の船旅は、主に書く事がない内容なので省きます。
これはさぼりとかではありません。

リアーヌは批判してきてます、そんなのお構いなしです。

明日の昼には目的地に着くのではないのでしょうか。
・・・どうなんでしょう・・・

この手の移動で大切なことは、

焦らず、慌てず、待機しておくことですかね？

いま思い出しました。

初日以来です。

俺が日誌を書き終えるのは。

十日目の日誌、終了

グレゴのおいしいレストラン（第11飯店舗）

〈食材未調達店舗日誌〉 十一日目

担当 グレゴワール

・
・
・
・
・
・

朝目覚めてから、する事が無かった。
残念ながら、あまり食材も無い。

買っていないから、仕方ない。

今日一日、 ただただ 船に揺られていた……

食事もとりあえずは船の食堂で……

かない。

感想はとりあえず書

これは、
同じ船に三日となると、食事などに飽きてきて、書くことができなくなってしまうて、

……日誌にまとめる気も無くなったから。

ダイレクトにそういうこと書くの止めましょう。

自分が将来のお客さんにそういうこと思われたら、悲しいでしょう？

b yボス・ドミニク

それもそうだ。

お客さん、自分の作った料理を食べてくれる人、

その人たちに喜んでくれたら…… 本望と言うべきなのかも。

それはそうと、

この車、うん

俺たちは・・・まだ”前の仕事”の道具を、
積んだまま・・・

以前の仕事、

人殺しに使った道具を積んだままの店

元人殺しの俺らが作る料理

それを食べて「おいしい」と言ってくれるお客さん・・・

まだ店を出していないから、
ズだ。

未遂だ。 の、ハ

料理を食べたお客さんも ”まだ” いない・

お客さん第一号は……どんな人だろうか？

この船を下船する時間になる。

このとき、夕食前の時間帯、

食糧の調達は……明日にする。

店が閉まってしまっている。仕方がない。

夕食はなんだかんだ話しあって、まわり巡って

・ ファストフード店で済ませた。

最近こんなが多い……

この手の店は、営業時間や価格で勝負をしてる。

利用する人のニーズに合わせた経営方針 利用する人の諸事情うんぬん・・・

俺たちの店は、このような店に打ち勝つような方針をとるのか？

このような店の 穴 を補うような形にするのか？

対抗するか、 まあ、すこし乗っかける形で営業をするのかは、

今のところボス・ドミニクに任せる形ではある。

もちろん三人で協力もする、いいアイデアは三人で考える。

そして

レストランとして店を構えるなら、

打ち勝ってお客さんを集めたい。

バーガー食べながらこんな事考えてた。

今日の日誌

終わり

グレゴのおいしいレストラン（第12飯店舗）

「車で陸路！ 店舗日誌」 十二日目

担当 リリアーヌ

はい、船から降りて日を明かして、

お買いもの 行ってきました！

久しぶりのお買いもの。 でも・・・

日用品と、食料品を買い込んだら、さっさと移動開始、でした←←←

もっといてもいいじゃん！！

ボス・ドミニク曰く、「無駄金をつかう訳にはいけません」だって。

それはもっともだけど、
ちょっと、

ほんとちよつつつつつつと、いいじゃん！

お買いもの。

今、仕事をしていない俺たちは収入がありません。
儲けゼロの俺達が金を浪費していいんですか？

それを取り戻すために、未来の俺達が泣くことになりますよ。

b yボス・ドミニク

力説されました。

納得、、はするけど気持ちちは収まりません。

お店をチラッと

見るくらいツツ

・・・分かりました、もう書きません・・・
（ボス恐い、主に無言になるとこ…）

日誌らしい事書きます。

えー、今日買ったものは、

約二日分の食料品、お肉、野菜、1..3ぐらいの割合かな？
グレゴの保存食も切れちゃってるので、大体のものを買わないといけないらしいの。

水も購入、貯水タンクの水も船旅で飲水がダメになったみたい。
い。

ボスはミネナルウォーターも買った、まだこの問題は続くみたい。
い。

この車のガソリンも購入、まあまあ安かったみたい、

？産

石油شان出国って、原油を海外に売ってて、国内で石油製品をあまり作って無いんじゃないかな、とか思ったりしてたけど、案外そうでもなさそうなの？

私だってこれくらいの事を考えて行動できてるよ！

だからあんまり子供扱いしないでね、二人とも！

の割には威勢よくタイプミスしてますね。

シャン出国ですか。そうですか・・・

b yボス・ドミニク

今日二回目のドミニク補正が入ってしまったちゃった。
かなり恥ずかしいヨ、これ・・・

そして短い時間でシャワーを借りて浴びました！！

とりあえず、真水のシャワーは気持がイイ事に、改めて気付かされた！

あの船はどう考えても海水が使われていたし、

・・・

改めてみると、シャワーとかのことを書いてなかったね。

シャワーが使える状況なら、なるべく浴びるようにしています。

におうのはイヤだし、 女の子だし・・・私も・・・

はい、ちょっと女の子ぶりしました、モウシワケアリマセン！

いいじゃん、女の子なんだし！

買い物したいし！

眠たくなってきたので、今日はここまで。

オツツ またね。

グレゴのおいしいレストラン（第12飯店舗）（後書き）

明日から学校が始まるので、お話を書くのが厳しくなります。

時間を見つけて書いていこうと思うので、

どうか気長に待っていただけたなら、うれしい限りです。

またお会いしましょう。

グレゴのおいしいレストラン（第13飯店舗）

くぐダグダ店舗日誌　　十三日目

担当　ドミニク

ここ最近、この日誌に「書く事」が無いと言って日誌を何かと短くする傾向があるようです。

二人、いや　三人ですか…

俺達の日誌が陳腐なものにならないようにするためには、

まず俺が二人にしめしを見せるのがいいと思います。

今日の出来事、に特別な事は無いですね。

まあ、厄介事が来るよりイイのですが・・・そうですね・・・

リビアとチェニジアの国境線はもう間もなく、

国境越えは、明日ごろでしょうか？

ただ今、グレゴが高速道路を走っています。

なかなか吹かしてますね。急ぐ理由はとくにないハズです。

覆面男が高速道路でキャンピングカーに乗り、快速運転で追い越しなどをしている。

かなりシュールな光景ですね。

そういえば・・・

以前は、海路にこそ、のような意気込みを持っていました。勝手に情報に踊らされていたような気がします。

船旅はほどほどの距離を、のびのび進んでいたみたいです。
乗船料と中での食事など、お金もかかりますね。

陸路と比べると、

ガソリン代や食費を考え、そうさして変わらないと思いますよ。

そのなかで船での移動は、

疲れなくていいですね。

結果的に、そこそこいい選択だったのかもしれませんが。

しかし、グレゴが言うには、

保存食品が底を尽きかけているそうだ。

思った以上に深刻です。

死活問題に直結する 重大な問題です。

今の今まで何かとグレゴの食料に助けられていましたね。

それが尽きました、ズバリ 危機的状況です。

グレゴはそういう事を気にかけて、車を急がせているのでしょうか？

・・・リリアーナが、そんなことも知らず、車内でなにかと騒いでいました。

グレゴのいる運転席にぶつかりそうになったところで止めさせました。

時速140キロで走る車のなかではしゃぐ、

運転手にちよっかいを出そうとする、の 現行犯です。

刑事罰は座席に拘留、三時間くらいですか。

軽い方です・・・

三十分程度で縄抜けされている事に気が付きましたが・・・

こういうことを書くのは柄ではありませんが、

なかなか楽しくて良いんじゃないですか？

そして、今日の昼食は抜きです、 みんな抜きです。

無いものは食せれず・・・

ブーブー言っても無いものは無いんです、リリアーヌ。

お構いなし・・・いや、仕方ありません。

夕食は、どうなる事でしょう？

何とかしなければ・・・

十三日目の日誌、終了

グレゴのおいしいレストラン（第14飯店舗）―前編―（前書き）

投稿に時間が空いてしまいました。
申し訳ありません。

そして唐突に二部構成となってしまいました。
これに関しては何ら意図しての行いでは無いので、
ご理解していただけるよう、
よろしく願います。

グレゴのおいしいレストラン（第14飯店舗）―前編―

く国越店舗日誌く 十四日目

担当 グレゴワール

今朝、目覚めると

た・・・
・・・地獄に來たのかと思っ

主にリリアーナの纏う幽愁の雰囲気で・・・

原因はアレ、

食事を二食分、取っていないだけ
前日の 昼食、 と夕食

二日分の食料が足りなかったようだ、

うん、全然足りない

それから俺達の食料問題は解決してなく、
結局 昨日の晩も何も食わず、早めに床に着くことにした。

そのせいで、朝から修羅場が続いている。

リリアーナの足つきは、寝起きすぐ だからかもしれないが、
空腹で足元がおぼつかないみたいに見える。

その足どりに対して、眼光は，，，

怒り、 狂気、 そして絶望に満ちた

そんな眼差しが皆に等しく注がれる。

空腹の狂気はとても危険、
少なくとも、
彼女は・・

「二人共、メシです。食べてください。」

そう言ってボス・ドミニクがこちらに何か放ってきた。

非常食であろう、エネルギー・バーが一本、

リリアーヌには二本渡されてる。

優しさだろう、ボス・ドミニクの・・

自分の分をあげている。

優しいね。

それに応えるように、

またたく間にエネルギー・バーが消えていった。

遠慮など微塵もない食べっぷり。

清々しさだけがそこにある。

ボス・ドミニクはいつものようにドライフルーツを適当につまんだ。

いつもよりも少なめに見える。

ちなみに国境は昨日の夜、越えた。

問題とか、ゴタゴタも無くってよかった。

今日の動きは、

この国の通貨獲得のため銀行へ（もちろん食料確保のため）

その後、その足で手短の市場へ（もちろん食料調達のため）

となった。

国境付近の物流や人の流れで、それなりの規模の街が機能している。

この国に来て、一目で食料問題が解決しそうなので助かったと思う。

市場に着くなり、リリアーヌが飛び出した。

フライング気味だ…

今のボス・ドミニクにそれを制止させる勢いは無く、

ソファアに腰掛けて

「止めてきてください。」

そうボソボソ言うだけだった。

ボスは来なさそうなので、車で待ってもらうことにした。

金を持って、リリアーナを追いかけると、

出店の前で物欲しそうな彼女を見つけた。

この辺の話は省くことにする。

この後はリリアーナと一緒に行動した。

久々の、 買い物。

リリアースじゃなくても、気分がいい。

しかし、彼女の盛り上がり方は・・・
今朝と比較したい・・・

いや。

・・・やっぱり

この市場は、かなりにぎわっていたと思う。

取り扱う商品の数も量も多く、

生食品から缶詰などの加工品などなど、品も様々だった。

それと、かなりの人がフランス語を聞き分けてくれた。

これはなかなか有益なことだと思う。

不格好なアラビア語を披露せずに済む。

リリアーヌも次第にやってきた空腹感を紛らわすためか、
やたら早口なフランス語で商店のおばさんに話しかけていた。

話だろう。

おそらく、世間

そんな彼女を引き連れて、
ボス・ドミニクのためにも早く買う物買って帰ろう。

・・・倒れて無いといいけど・・・

／前編終了

グレゴのおいしいレストラン（第14飯店舗）―前編―（後書き）

操作ミスで、

後編が消えてしまっています。

まさに、最悪だ・・・の状態です。

近日中の再投稿はどうにも難しいようなので
ちよっと時間が開いてしまいそうです。

内容があまりにもアレだったので書きなおそうとした結果・・・

グレゴのおいしいレストラン（第14飯店舗）―後編―（前書き）

はい復活、

なんだか手違いで消してしまってから、
気が付いたらウンか月経ってしまっていた。

ズボラし続けた結果ですね・・・ O r Z

グレゴのおいしいレストラン（第14飯店舗）―後編―

十四日目／後編

両手に食料品やら荷物を山のように抱えて、

テンション上げてすぎてお疲れ気味のリリアーヌ

にも山の山のように荷物を持ってもらって

ボス・ドミニクが待っている駐車場付近まで戻ってきた。

なんか・・・すごい事になってた・・・

受け止めきれない・・・

パトカーが停まってる・・・

俺らの元職業柄、まずい事になってそう・・・

もしくはもうなっている。

ボス・ドミニク・・・まずいのか？

「グレゴ・・・ポリスいる・・・」

何故か一部分だけ英語でリリアーナが呟いた。

彼女もこの事を受け止めきれないようだ。

「あの、グレゴ・・・ えっと、 どうするっ..」

珍しく彼女も動揺してる。
はて、 どうしよう？

「とりあえず、行ってみよう・・・」

2人でポリスのところまで歩いていく。

気は進まないけど・・・

他に行くところもないし

何より今持っている荷物が重いので・・・

ボス・ドミニク、何を起こしたのだろうか？

（後で聞いた話）

お腹をすかしたボス・ドミニクが力なくソファーに腰掛けていると、

駐車場の端から、明らかに挙動のおかしい二人組の男が歩いてきた。

ボスが、車上荒らしか？　と思ったら本当にそれであり、

・
・
・
・
・
・

ボスは突然、（撃退してやろう・・・）という謎の気力がみなぎり、

今いるこの車のドアの鍵が開いている事を確認すると

ドアの入口脇に体操座りで待ち構えたそうだ??

、なんでこんな事をしたのか、と聞いてみると、

「・・・俺はそのとき、人が”どうしようもない失敗”をする瞬間の表情を見たかったんですね・・・」と、

あまりぱっとしない答えが返ってきた。

ともかく、ボス・ドミニクが車内で 車上荒らしを待ち構えていると、

コツ、コツコツ と、窓をノックするような音がした。

犯人が車中に人が乗っていないか確かめると、

一人は車内を漁る実行役、もう一人は辺りを見張る監視役に分かれて

犯人の一人が中に入ってきた。

隠れていたボス・ドミニクがわざと足音を出すように歩き、実行役の男に

自分の存在を知らせるようにした。

実行役は、自分以外の足音を聞き、さぞ驚いただろう・・・

男は何が起こったのか、振り返って確認しようとする、

その男のみぞおちにボス・ドミニクの膝が滑り込んだ。

それからボス・ドミニクはその男の首に手を回した。

これは相手の血管を締める締め方ではなく、気道を塞ぐ締め方だそうで、

みぞおちヒットで頭ぐらぐらの犯人は5秒と経たず堕ちたそうだ・

ここまでで約八秒。

ボスは 監視役がこの襲撃に気が付いてない事を確認すると、

実行役を手頃なロープで縛り上げ、ソイツの足を高い位置にして放置した。

意識が戻らなかつたら大変だからね・・・

それからボスは実行役が入ってきてから約一分を数えて、外に出た。

犯人たちの犯行時間が一分ほどだろうと踏んでの事だそうだ・・・

妙に凝っている・・・

ボス・ドミニクは車の窓から監視役が後ろを向いている事を確認して

また、わざと足音を立てるようにして犯人に近づく。

監視役は、仲間が降りてきた、と、完全に油断して振り向くと、

車から三步で男との間合いを詰めた、

ボス・ドミニクの拳が男の顔面に・・・

車上荒らし、
撃退完了、、、、

・・・いや、まだだった

この後、この国の警察の電話番号を知らなかったボス・ドミニクは、

意識が戻った犯人から直接番号を聞き出したそうだ・・・

・・・鬼だ・・・

（後で聞いた話）

終わり

パトカーの中で手錠をかけられ、うなだれている2人の姿、

まあ仕方が無いね。

車からボスと警察が一緒に出てきた。

現場検証みたいな事でもしてたのかな？

ボスが 「よかったです。 フランス語が通じます。」 と言った。

ほどほどに警察とコミュニケーションをとっていたようだ。

ちなみに、

犯人の二人はここ一カ月のうちにリストラされた失業者だそうだ。

金も食いぶちも無い二人は日銭を得るために、およそ2週間前から
ここらあたりで

犯行を繰り返していたそうだ。

警察も警察で被害件数が増大しているこの辺りでの犯行と言う事で、

特にとがめることなく男たちを現行犯で逮捕した。

うん、大丈夫なのだろうか・・・コレ？

プロネ ビアン ソワン ドウヴ

「P r e n e z b i e n s o i n d e v o u s .」

警察官がフランス語で（お気をつけて）と言い、パトカーを発進させた。

・・・なんというか、

それこそチンピラみたいな連中、車上荒らしで連行される2人を

殺人者、元殺し屋の俺たちが見送っているという・・・

たぶん、三人ともシニカルな気持ちで見てたと思う。

「ところでグレゴ・・・

何か作れますか・・・？

非常に腹が空きました・・・」

弱弱しくボスが呟いた。

いつも以上に目に力が無く、その足取りはとてもおぼつかない。

「これは急いで準備しなくちゃー

今日の昼食は、
市場で買ってきた野菜とお肉とかで、

何かボリュームのあるものを、と思い、

まずはサラダをこしらえた。

まずは普段作っているようにサラダの準備をしながら

カセットコンロとフライパンでお肉に火を通しておく。

そのときは特に味付けはなし、

あとでドレッシングをかけるから胡椒など香辛料だけをふり、火を

通す。

あとは好みのドレッシングをかけて出来上がり。

ちょっとしたオリーブオイルで印象も変わる。

双方かけ過ぎ注意

一品目が出来た。

ボスもリリアーナも景気よく食べている。

良かった。

（こっそり俺もつまみ食い・・・）

それじゃみんながサラダをパクついているうちに、

ブリクをこしらえよう。

あくまでお手軽に・・・

それじゃまず最初に、

いつもは使うことすらタブー化している発電機を回す。

そして荷物の下に埋もれている、電気オーブントースターを引っ張り出そう。

電気オーブン・・・

なかなか高性能だけど、発電機を回さないとともに動かないので、

俺たちの旅ではどうあがいても無用の長物、

三度くらいボス・ドミニクに捨てられそうになったこいつを使おう。

ブリクは、いったら肉詰めのパイみたいな料理、

この辺ではちよつと形が違うみたいだ
けど・・・

まず、市場で手に入れたパイ生地、

お肉、 スライストマト、 ちよつとのタマネギ

ジャガイモ、 パルメザンチーズ、

あと香料、香辛料色々・・・

それを包んで余熱したオーブンの中へ。

「これはいい香りがした」

食べた。

なかなか好評だったみたいだ。

ただ、ボスこう言ってた。

「しかしこれは俺らのレストランのメニューにはあげられますかね？」

ずいぶん時間がかかるみたいですし、カロリーも高め・

・・」

そのとうりなんだけど、

今日のはボスの腹具合から考えてのボリュームだし、

カロリーが高いのもその為・・・

サラダも・・・

ブリクが焼きあがるまでの三十分間、食べられるぐらいの量があったし・・・

まあ何にせよ、

今日一日はドタバタした、

色々起こったみたいだし、
お金も使った。

いいものは、色々と手に入ったと思う。

今日の日誌

終わり

グレゴのおいしいレストラン（第15飯店舗）

（ちよつと休息店舗日誌） 十五日目

担当 リリアーナ

今日の活動、

とりあえず、現在地からの大きな移動はなし。

ここで丸一日、大きな移動の準備をしました。

・・・

昨日の『沈黙のボス・ドミニク事件』 ↑昨日命名

の一件で、ポリスにマークされてないか、微妙なところです。

まあ別に、わたしたちが実行犯ってことも無いし、

特に心配ないよね・・・ よね？

うん、今日の日誌を書くよ。

今朝起きたら、相変わらず早起きなボス・ドミニクとグレゴがいま
した。

こちら辺はいつもどうり。

ちよつとだけ違うのは、朝食を外で食べたことくらい！

昨日からチョツツツと、気になってたお店に行ってみました。

朝から三人で、何屋さんかな？とか、 香辛料の香りとか、

店と店のすき間とか、 トコトコあるいてく動物とかと
か…

色々なところを見て 感じて

もう なんか 目を回しそう…

でも楽しい！

グルグルぐるぐるお店を回って、あるお店に到！着！！

結構小さめだけど、全体が明るい黄色とオレンジの配色でカワイイね。

中は・・・想像した通り・・・かな、
キレイにお掃除されてる。

今日食べたのは、
クスクシエ（クスクスともいうのかな？）

ホントは朝から食べるものじゃないけど、
何かとつつても、食べたくなった、食べたかった……

ここの店主さんは、ほどほどの年に見えるおじいちゃん。

料理を注文してから、厨房の方を見てみると、

そのおじいちゃん、

底の深い鍋と浅い鍋をドッキングさせたような鍋の前にずっといる・

（たぶん、専用の鍋）

火加減でも見てるのかな？ とか思っ
て見てたら・・・

間違はなく寝てた。 目、開いてない。

そのあと奥さんらしき人が肩叩いてた・・・

ついでに薪を足して火を強くしてた。

火加減もダメなんじゃん！！

なかなか時間がかかったけど、 お目当てのクスクシエが出てきた。
かなり大きなお皿で出てきた。

おいしいものって、幸せになれるよね。

素敵な触感のクスクスと、トマトとオリーブオイルの相性が最高で・

・

それに

唐辛子ペーストみたいなもの、あれっが、すごく香りよくって・

・

かなりの量だったけど、三人でアっという間だった。

途中、あのおじいちゃん店主がお酒、ワインを勧めてきた。

ボス・ドミニクは断ってたけど、

グレゴは途中から飲ん

でた。

グラス五杯くらいは・・・

そう言えば・・・グレゴがお酒で酔うところを、あまり見たことがない。

今日も酔って無かったみたい。

店を出て、車に戻ってきた。

うーん、

朝ごはんとも昼ごはんとも分からない時間に食べたから、

昼は食べないでよさそうな・・・

・・・

おいしいごはん食べた後で、

ボス・ドミニクの・・・

・・・一言・・・

「えっと、掃除でもしましょう。」

もう！！、聞きたくなかった！！

この言葉！！！！

なんていうか・・・お掃除・・・
じゃん。

メンドくさい

そうボスに言ったら 怒られた

なんか泣きそう・・・

〃〃お掃除〃〃

〃〃グレゴワールと一緒にお掃除中〃〃

・・・結果、

す、
「あなたに「掃除」をやらせると、何故か散らかりま

いいえ、

が拡散します！」

ゴミ

そう言われた。

なぜかそうなっちゃう！ ホント不思議！

世界三大不思議に入れ

たい！！

ボスが外で 車に入ってきた砂を掃除している間、

隣にグレゴが居るにも関わらず、 なぜか掃除できない・・・

掃除、進まないし、 なぜか散らかってくし、

あゝあゝ、 やっぱり私って、

ちよっと、

かわってるの

かも…？

どうなのかな？

グレゴ？

ボス・ドミニク？

えっと、

オワ・・・り・・・。

グレゴのおいしいレストラン（第15飯店舗）（後書き）

この後、ボス・ドミニクによる、

制裁が下されました。

きちんと仕事をしないと、誰かが痛い目を見ます。

他人か自分かはわかりませんが・・・

グレゴのおいしいレストラン（第16飯店舗）

〈移動再開店舗日誌〉 十六日目

担当 ドミニク

昨日は、 何なんでしょうか？

リリアーナが行きたそうにしていた店に連れて行ってあげました。

午後からの掃除に関して、 あーだこーだ文句を言われないうちに・
・

この選択は、 まあ成功でしょう。

これからの出店の足掛かりになるかもしれない。

グレゴの料理の開発やらなんやらに繋がるかもしれません。

リリアーナも、 文句を言いながらも掃除をやって・・・くれ？

相変わらず、 日誌にため息はつけません。

そして・・・

彼女の掃除レベルの向上を、 あまり期待しない方がいいかもしれない。

基本的に不器用ではないのですが、

その・・・書きにくいですが、

清掃という解釈が普通の人と違うんじゃないのかな？ とか、

本気で考えてしまいそうです・・・ スイマセンね。 リリ
アーン。

散らかる、の域ではとても収まりきりません。

見るからに、嵐です。

それと昨日は、車内の掃除と、俺達の”掃除”もしまして、
シャワー と洗濯 です
ね。

これらは大概ホテルとかですかね、 それらの施設を利用しますよ。

洗濯だけなら、それだけの設備があるところで構いません。
（それを見つかるだけでもなかなか骨ですけど・・・）

わざわざホテルでシャワーだけつてのも、金の無駄なので、

シャワーの確保も重要な旅の要素だと考えてます。

あくまで 移動が家ありトイレありの、キャンピングカーならではの要素という
考えです。

はい、本日の日誌を書きましょう。

各々、長距離移動の準備を、それなりに整えていたみたいです。

グレゴは「グレゴの棚」に何か入れ込んでましたね。

市で買い込んでいた食料品でしょうか？

一応フリーザーの中にもそれなりの食料が入っているのですが…

まあ、ここぞのときに頼れるグレゴです。

何が入っているかは、信頼という事で任せましょう。

リリアーヌは、・・・別段変わった事はして・・・

いえ、生活品でしたね。率先して買い揃えてきてくれました。
ました。

日誌をつけ始めた直後でしたか、

あれ以来から、リリアーヌに渡す金額、（小遣い）ですが
若干ですが増やしてあげました。

それ以外にもちゃんと買い物等の金も渡していますよ。

（釣銭は返金されていないが・・・）

それでも、意識の向上や、全体に対して行動してくれる感謝の気持ちとして、

お金を与えているわけです。

ねだ

強請ったり 甘えたりしたぐらいでは、一銭も出す気はありません。

あくまで行動した分だけは、評価してあげないといけません。

まあ、前の”仕事”では、そんなことも考えても、

あまりに愚かと言うか、

ヒトゴロシに評価も何ありません。

あるのは、

依頼主の業

淀んだ金

それと妙な形に歪んだ、人だった肉塊

それだけです。

でも、俺達がそんなことで気を落としても、何も始まりません。
何も生み出しはしません。

そして実際、世界のそこかしこで、人が死んでいます。

病でも、事故でも、殺人でも自殺でも。

考えるだけ、今の俺達には無駄なだけです。

考えるのも無駄なぐらいの死体の顔を見てきましたから。

今は今、昔は昔ですね。

とにかく、今の自分たちの事で精一杯手一杯です。

助けられるものなら、考えましょう。

それだけです。

はい、それだけです。

今回は昼過ぎから移動を開始しました。

俺は自前の水くらいです、用意したものと言えば・・・

それと、できる限りの情報を、頭の中に。

車が発進して約五分、リリアーナが叫びます。

「うああアアアー、積みそこねたよ!!」

私買った、暇つぶしのヤツ！」

どうやら、荷物をおいてきてしまったようだ。
ただのミスだろう。

だけど引き返すのも、先ほど書いたように、
「無駄」というものです。

リリアヌの「暇つぶし」とやらが、どのようなものかは知りませんが。

出発した車は止まりませんし、引き返りません。

これは”お構いなし”です。

道のりはまだまだ先に、

形も大きさも、それまでの距離も俺達の速度も、

止まっているのか動いているのかも 不明のままです。

さて、
これからが楽しみです。

グレゴのおいしいレストラン（第16飯店舗）（後書き）

その後　　（ a b o u t ）

ドミニク三人組が立ち去った駐車場に、鳥かごが一つ。

中には、鑑賞ペットの黄色の鳥。

元主は当然何処にもいません。

それに気付いて近寄ってくる男の子が一人、
そして、もう一人。

鳥かごと一定の距離をとりつつ、二人は睨み合います。

どちらが先に鳥かごに飛びつくか、

それともけん制しているのか？

しかしその間に、勢いよく滑り込んできたのは、一台の車。
勿論駐車のため。

生憎、鳥かごに注意など微塵もせずに・・・

車の下に吸い込まれた鳥かごは、

「バキヤバキ！」っと、不思議と心地いい音を出しました。

少年二人は見てわかるほどに落胆していました、
が、

車の下から、鳥かごの中の黄色い鳥がピョンピョンと跳ねてきました！

盛り上がる少年たち。
が！！

その少年らを背に、自由となった鳥は、目指すべき場所へ、羽ばたいた。

その後、彼らの瞳には、大粒の・・・

グレゴのおいしいレストラン（第17飯店舗）（前書き）

前回からだいぶ時間が経ってしまいました。

本文に関しても、いつもと大体変わりませんのでどうかご了承ください。

グレゴのおいしいレストラン（第17飯店舗）

〈旅飯店舗日誌〉 十七日目

担当 グレゴワール

目下この国をすすんでいるが、
車を走らせていると、目に入ってくるものが
あまり変わり映えしない事が目に付く。

食料生産率がアフリカの中でも高い方な国だそうなので、

家畜であろう羊の群れや、オリーブの木々、野菜の畑が見る事が出来る。

そのすべてに、 広がった肥沃な大地が、食や、生物に対して
計り知れない恵みを与えているという事がわかる。

その恩恵が、俺たちの視覚的に、非常に単調な景色として認識させられる。

ちよっとしんどい・・・

今日一日で、どれくらい進めたのだろうか？

具体的な距離は確認してないから知らないが、明日、明後日には、ヨーロッパ行きの船に乗れるのではないだろうか。

ガソリンは以前に買った物が、車の燃料タンクにまだ入っているし、それに別の容器にも確保してある。

食料もかなりの量をストックしてあるから、一週間ちょっと、調節してやれば二週間もってくれるはずだ。

後は、車を走らせるだけ・・・なのだが・・・

リリアーナが・・・

「つまーーんな——い——い——」

だそうだ。

「贅沢な事を言うもんじゃないです、
リリース。

車止めてジツとしてたって、何の得にもなりません。」

運転席に座るボス・ドミニクの、なにかがずれたツツコミが入る。

贅沢・・・なのかな？

「車止めたって近くには何も無いじゃないですか？

ジツとしてるのが気に食わない、とか、ただ暇なだけ、とか、そんな理由なら

車は止めませんよ。」

ピシヤリと言った。

最近時間をくったばかりなので、もう寄り道もしないそうだ。

その事を聞いてからリリアーヌも少し消沈しているみたいだ。

反抗する態度は大きいけど・・・

く 昼時になったく

移動中の車内で火を使うのはさすがに危険なので、車を止める。

しかし、

車が停車したところで、リリアーナの気が晴れることは全然なさそうだ・・・

気晴らしできそうな物は近くに全くないと、

先ほどのボス・ドミニクの発言に、すっかりおかんむりだった。

軽くギクシャクした雰囲気になってしまっている。

・・・食事したら・・・治る・・・のかな……………

今朝は相変わらずのドライフルーツだったけど、

昼は昼で相変わらずだった・・・
いつものカセットガス
コンロ調理・・・

ま、
できる限りはしてみる。

今日は、いつもの感じの冷スープ、

トウモロコシの缶詰と、何種かの野菜、

それと この前に市場で買った、おいし
いお塩で作った。

あと、ジャガイモを調理したいのだが、
いつもと違う感じに調理してみた。

リリアーナにもちよつと手伝ってもらおう。

ボスは車内：

彼女にはそこらへんに穴を掘ってもらう。

そこにオリブオイルと香辛料と一緒にアルミホイルで包んだジャガイモを六個ほど並べておく。

軽く土をかけて、その上から燃料（勿論石油類ではない）に火をつける。

後はその火の上と下で調理するだけ・・・

火の下でジャガイモに火を通し、上は、・・・お湯を沸かす。

じっくり弱火で三、四十分、しかし、なかなかお湯が沸かなかつた。

ボスは

待ってるだけ……

調理の結果、

いつもの感じの冷スープと、

ホクホク、の 一歩手前のジャガイモ

が出来上がった。

香りは、いい感じだったけど・・・
もちよっと火を通せれば・・・

まあ、 リリアーヌが、「いつもと違う感じ」 を楽しんでくれ
たみたいなので、

これで良かった気がする。

調理にも生活にも、何か変化や面白みとかがないと、
やっぱり退屈してしまう。

ちなみに、
あの沸騰させたお湯は、今夜の夕食の食材の下茹でに使った。

それと残ったお湯は、ブラックボックス掃除に利用した。

掃除をしたのは、ボス・ドミニク・・・。

「あの・・・、別に掃除は構いませんし、水を大切に使うもの良いことです。

ただし、そのことをわざわざ食事中に話すことはしないでしよう。」

リリアーナが仕返しに、突然言い放ったのだから仕方ない。

「今日活躍してないボスには仕事をしてもらおう!!」と。

車の運転は仕事に入らない様だ。
やいけない。

注意しなくち

り

今日の日誌
終わ

グレゴのおいしいレストラン（第18飯店舗）（前書き）

大変長い時間が過ぎてしまいました。

一か月以上過ぎての投稿は、かなり恐ろしいものですね・・・

それと同じくらい恐ろし物は、

明日の試験と、今の学業の成績ぐらいしか頭に浮かびません・・・

グレゴのおいしいレストラン（第18飯店舗）

〈車の中店舗日誌〉 十八日目

担当 リリアーヌ

・今日一日の事

一日中車の中にいて、明日にはヨーロッパ方面に船を出す街に着き
そうな・・・

ぐらいのところまで移動しました！！

でも今日一日で何かした！ 　　って事も無いから、

書くことがほとんど無いんだよねゝ どうしようかなゝ？

今日三人で喋ったことでも書いていこうか・・・？

そうしよう！！そうしよう！！！！

じゃ、思い出せるだけかいていきまーす！

朝のお目覚め、
車は道端に泊めています。

ほぼ三人が同時にお目覚め。

そういえば、
ほんのちよっと前はボスとグレゴが交代ごうたいで車を運転して、
昼も夜も移動してたけど、

ボス・ドミニクが「そんなに急がなくても… ねえ…」

とか言ったので、今は昼間ぐらいしか車を走らせません。

「長い間車を運転するもの、やっぱりしんどくてあぶないし…」とか言っちゃって

ボスもちよつとゆったりとしたい感じです。

わたし的にはもつとゆっくりしてい（ry

ボスがこつちすつごい見てる・・・ウシコシコシコシコ

みんなたっぷり眠って顔洗ってドライフルーツつまんで、

今日の移動が開始。

やっぱりつままないよね。

だから私も気晴らしのようにいっぱいしゃべっているんだけど・・・

あまりにたくさんしゃべりすぎるのと、

お話の内容が大したことじゃなくてホントによく忘れるの・・・
どうしよう???

えっと、わたしたちの出店の話はあった、

グレゴの作る料理に冷スープがよくでる話もあった・・・

あ、そうだそうだ！ 思い出した！

前のグレゴがクスクシエ食べたお店でワインを飲んだ話だ！

あの時はわたし、そんなに気にして無かったけど、

あそこの人はほとんどがイスラム教徒で、お酒を飲んだりするのはダメなハズなんだけど、

どうしてお酒を勧めてきたのかって話・・・

で、その事を二人に聞いてみると、

「ああ、あの時ですか。」 とボス・ドミニクの返事。

「店主に直接・・・聞けばよかった。」 とグレゴの声。

やっぱり二人とも、そのところは深く考えていなかったみたい。

ま、わたしもだけど・・・

ボス・ドミニクは、

「我々をイスラム教徒じゃないただの観光者と思って、

酒を出してくれたんじゃないでしょうか？」

てっ感じ。

グレゴは、

「自分らで飲むのはダメでも、売るのは構わない、 てきな・・・。

」

グレゴが自分のアゴに手を当てて、 「たぶんソレ」 みたい

なポーズ。

なるほどなるほど！　て納得する話。

「そーゆーところに目を向ける事はいい事ですね。

三人の　店舗出店の時、メニューの中に　アルコールを入れるかどうか？

宗教的な　理由や、　もちろん金銭的な　理由も考えて、

じっくりと、　決めていきましょう。」

ボス・ドミニクの名のゆつつつくりとした喋り方www

「なにソレ、笑わせようとしてるの？ ウシコシコシコシコ
W W W W
」

わたしが ギャグかな？ って思って笑ったら、

ボス・ドミニク……

「割とそのつもりで言ったんですけどねえ。

ハアアア。

」

……あれ？

それってわたしを笑わそうとして、わざとしたんだよね？

という事は、
成功してたよね？
いよね・・・

別にため息つく必要な

なんか・・・よく分からない理由で、ボスが撃沈して、ペタンツと席に座った。

なぜかボス・ドミニクのテンションが今日一日、

(いつも低めだけど・・・)

下がりっぱなしだった。

うん、今日の出来事は、そのぐらいかな(汗)

いやゝ、ホントホント！

もゝゝゝホント、意外と時間たっちゃったよねゝ。

街寄ったり、船乗ったり・・・ 車上荒ら殴っちゃったり・・・

「ボスのチラ見　／　略してボスチラ発生中」

アブナイ仕事辞めてからも、

やっぱり何かトラブルみたいなのが着いてきちゃうのかなゝ、
て思っちゃう。

てボス補修」
でも関係なん。

←誤字「ボス・ドミニクの補修　／　略し

三人集まれば何とやら！

どうかこうにかして、切り抜けられないピンチはない!!

最後だけはかつこよく締めてみたリリアンちゃん。

ニク。

今日はここまでで、明日は・ボスドミ

グレゴのおいしいレストラン（第18飯店舗）（後書き）

とにかく、夏休み中なので、PCの前に座れる時間が大幅に増やす事が出来ます。

特に運動部という事でもないの（帰宅部でもないです）、土日などもゆったりできたりと、ひとまず夏休みの宿題以外の敵はいないみたいです。

最後に、

こちらの作品を気長にお待ちくださった皆さまに、深く感謝いたします。

そして、ほんのちょっとだけ進展が見えてきた、「飯店舗」を、

どうか生温かく見守ってあげて下さい。

これからよろしくお願いいたします。

グレゴのおいしいレストラン（第19飯店舗）―前編―（前書き）

十四話について、特に意味なしの前後二部構成です。

多少筆速をあげたので、少し雑になっているかも知れませんが。

おそらくはいつもと変わらないほどの出来だと思いますが・・・

グレゴのおいしいレストラン（第19飯店舗）―前編―

ゝ悪者店舗日誌ゝ 十九日目

担当 ドミニク

「悪者というのは、半分本当で、半分皮肉です。」

はい、本日の店舗日誌、

長きに亘るエジプト・リビア・チュニジア横断車旅、

いよいよ見納めと呼べるところまで到着したようですよ。

ええ。

手前に見えるは、俺らが乗る夜行フェリーを出す町、
その夜行フェリーの本日最後の便に乗る事に
しました。

行き先は観光地として有名なシチリア島方面です。

勿論、シチリア島では店を構えません。

単なる通過点とするつもりです。

理由は二つ、まあ長たらしくなるので、後述としますよ。

しかし車の運転時間を約半分にしたにもかかわらず、

まあまあ都合良く移動できたようですね。

これで時間と食料、そして支出を抑える事が出来そうです。

これは吉と言うものです。

ですから・・・

「余った時間でパ〜と遊ぼうよ〜!」とか言わないでくださいよ

リリ

アーン・・・

いやマジで・・・

「遊ぶ」っていうのは、仕事をこなした見返りのようなものです。

仕事をしていないような立場の者が安易にそんな事をしてたら・・・

ですよ・・・

破産、

破滅

まあそれでも別にかまわないというのであれば・・・

じゃないでしょうか？

いいん

こらこら！

元気よくyesとゆーな。

そういう事を言ったらリアーヌが元気よく外に飛び出してしま
った・・・

・・・
・・・
・・・
・・・
・・・

・・・まったく、日誌にため息はつけません。

も言いましたね・・・

以前

こんな感じの (リアーヌ飛び出す、 グレゴ追いかける、

俺は居残り） 事が

最近になって何回か起きてます。

もう慣れっここですが （お土産はもういりませんが・・・）

リリアーヌの活発で好奇心の塊のような心が悪いとは言いませんよ。
ですが・・・ 少しは自重してくれても・・・ ねえ。

そのうちは自覚してくれるのでしょうか。

それともみっちりと教えてあげるのでしょうか。

いずれにせよ、帰ってきたら

熱い灸を添えてあげましょう。

リリアーヌとグレゴが飛び出してからそんな事を考えていると、

一本の電話着信があった。

はて、どちらだ　友人はいないつもりだが・・・と

能天気な電話をとると、　やはり見知らぬ男の声

「ああ、ドミニクさんですか、　どうも。」
そんな短いセリフ

電話に応えると、　ああそうか　と納得した。

”前の仕事”の依頼は、こんなのだった、と。

電話の男、まあ間違いなくその筋の男は、こう続けた。

「いやあ、少し相談したい事がありまして、そちらは今どこに？」

この手のアブナイ仕事の連絡などは、

基本的に 短く 名乗らず 不明瞭に どこかに待ち合わせる事を前提として喋る。

この男も もれなくそのような前口上、

ら・・・さっぱりです。

何を警戒してるのや

とりあえず断っておきましたよ。

ええ。

「私が何処にいおうと、もうおたくには協力できないと思いますよ。

なのもうかけて来ないでくれると有難いのですが。
それでは。」

それだけです。 はい、それだけ。

それ以上続けると、

アア！なんだ貴様・・・ とか、

なに寝ボケた事言いやがる とか、

ひねりも何もない返答がやってきそうなので、衛星電話の電源オフ
りましたよ。

今までロクに使う事も無かったので、困る事はないでしょう。

たぶん。

その事を帰ってきたリリアーナとグレゴワールに報告すると、

二人とも何か困ったような素振を見せましたね。

「まだ知らなかったんだ、俺たちが引退したの・・・」
そう言ったのはグレゴワール、

逆に知っている輩の方が少ない気がするが まあいいや。

一番ソワソワと落ち着きが無いのがリリアーナ・・・

「どうしよう、どうしよう！」

ボスがそんな態度で接したから、

そいつら私たちのお店にほーふく攻撃してくるよ!! 絶対!!」

安心して下さい。 それはありません。

まず俺らの店はまだ存在しません。

まあそんなゴタゴタがあった 今朝の出来事

奴のような前の仕事の依頼は、これからあるかもしれません。

そんな輩はもれなく無視しましょう。

今の俺らにはホントに必要なものでしょう。
まったくホントにどうでもいいダイレクトメールと同じくらいどう
でもいい。

その辺は、これから対策を考えましょう。

朝の話でだいぶ長くなりましたが、次は昼です。

編終了

／
前

グレゴのおいしいレストラン（第19飯店舗）―後編―

十九日目／引き続き

昼は昼で・・・

なんだかんだで、

いるよーな・・・

二人に振り回されて

事の発端はこうです。

昼飯を頂くには丁度の時間帯、

私は二人に聴きました。

「お昼はどうしますか

俺はできれば、グレゴの飯が望ましいんですが・・・」

まあ、いつもどりのグレゴのメニューを期待しているのですけどね、

我ら三人、稼ぎのない身の上、

安易な出費は抑えなければ：

「えっと、 ボス・・・

ちよつと相談したい事が・・・」

はい、読めましたね。

どうせ、　　　　ゝ外で見つけたおいしいそうなレストランゝ　　　　やらで

食事がしたい、とか何とかの相談ですよ・・・コレ。

「多数決で今日の昼の御飯を決めたいんだけど・・・　　　　イイよね?！」

少し、予想外でした、

たった三人で多数決とは・・・

「はいはい、　　　　で？」

その選択肢は？　　　　俺はいかにして抗えばいいのでしょうか?」

「そんな卑屈にならなくても・・・
多数決だよ、チャンスもあるよ！」

これはこれは、
リリアーナは、このシステムを誤解してますね
少し、教えてあげなければ・・・

というかりリアーナとグレゴワールが口裏合わせて、
二対一
って

勝たせる気無いですよね。

「甘い甘い、
甘いですよリリアーナ・・・」

一気にトーンを下げて話してやる、

すると彼女も気配を察知し、次の言葉を押し殺したように口を閉じた。

「本来 多数決は、不利、不公平が無いようにと考えだされた、民主主義には欠かせないファクターです。

しかし、人間とは自己の利益とあらば、何にでも手を打ってきます。

” 勝つため ” と言えば、当たり前なことですがね。」

「・・・ボス・ドミニク？ つまり、どゆこと？」

これはこれは、

普段なら聞き流されるであろう俺の話にのってきてくれた：

俺なりの考えで、彼女の疑問に答えてあげなくては・・・

「多数決というシステムは、

言わば他の意見を淘汰する理由を与えるシステムなんです。」

「フーン・・・ えっと、」

ここにきてリリアス、何か不満げな表情に、

まあなんとなく理由は分かりますが。

「それは・・・今日のランチを決めるのにどのくらい関係あるうゝ？」

「ぶっちゃけ、ほとんど関係ありません。

でも最後まで聞いてください。」

聞いてくれないと、正直悲しいです。

「多数決は、いかなる場合でも選択肢が用意されます、

そして人間はそのときの選択肢の中で、自分の意見を反映させます。

しかし、その際、自分と意見が合わないもの、敵対するものが出

てきます。

仕方ありません。

そして多数決の結果、自分の意見が採択されず、六対四という結果で、

自分たちが負けたとします。」

「ふんふん、　でー？」

「このとき勝った側の人間には、ある条件を獲得しているんです。」

「ふむふむ、　どんな？」

「はい、　強者、と、　正論、　他にも有りますが、とりあえずこの二つです。」

まず、強者、という条件ですが、これは、数の問題です。

実質的な力の事ではなく、主に得をした人間の数の事です。

そしてその人達が、こぞってこう言うんです。

「多数決で決まった事だから」 これが、正論、です。

勝った者だけが、世にいう正義を語れるんです、

そして、その正論を通す事が出来るのが、

その論を掲げる多数の人たち、さっき出てきた六割の人間達です。

じゃあ今度はその反対、負けた人間のことです。

この人たちは、自分の意見が否決された事で、不満があります。

さらに、この多数決によって得をした人々を妬むでしょう。

自分たちは何も改善されず、指を咥えて見てるだけですから・・・

「ねえねえ？　ボス・ドミニク？」

「ハイ？」

「この人たち、心狭すぎない？
六割がヒヤッホーってなって、四割がくやしがるって・・・」

まあ納得の一言

「あまりに極端すぎるのは例えだからです。
これはあくまで人間の潜在的な意識の事ですよ。」

最初にいつてよく、と彼女に注意されました。

まあ、スイマセンね。

話に戻します

「その四割の人たちの意見は、六割の正論にかき消されます。

そして・・・

そのかき消された四割は、不安要素に化けていきます。」

と、言ったところでリリアーヌに

「じゃ、今のボス・ドミニクは不安要素？」

と言われてしまった：

「だから直接的な意味じゃなくて、潜在的な話ですよ！」

柄にもなく、大きな声を出してしまった・・・

も、もう駄目だ、これ以上話を続けられない・・・

これ以上、話を続けても こっ恥ずかしいだけです。

結局、多数決の、 この場合の二者択一

（定めなければならない事柄に対する反対意見の淘汰、）という、

ある種のジレンマの事を説明する事が出来なった。

たとえ誰かが救いを求めているも、それが多数の意見で切り捨てられることもある、

そんな事を言いたかったのだが、

ただのランチ決めの会話の中には、そのような要素は無かったのでしよう。

はい、

今はグレゴが車を運転して、例のレストランに移動していますよ、

これまた、少数の意見なんてお構いなしなんですよね。

まあ、次こんなことがあったときは、

グレゴがこちら側に回ってくれ
ましょう。

グレゴも、今回がアフリカ最後の記念みたいなものだから、
みたいな感じで、外食側となっていたようだし・・・

おそらく、いや、グレゴは理解しているはずですよ。

俺たちが意外と切羽詰まっている事に・・・

日誌を終えるには、丁度いい区切りですが、

もうちょっとだけ続書きを書いています。
きます。

今から向かうシチリア島方面で、店を出さない理由、

いや、出せないですよ、たぶん・・・

要約して話すと、

まず俺たちはまだ客に料理を提供できるスキルを何も持っていない。
ん。

何事も為せば成る、とはいかないですよ、リリアーヌ。

そんな訳の分からない輩の俺たちに、

ホイホイ出店地を貸してくれるオーナーがいますか？

屋台を出すにも、機材も経験のない俺たちがあがいても、

客は来ません。

次行きます、

二つ目の理由、

シチリア島、

いいですね、観光地です、
観光客がいっぱいです。

今はそれなりにバカンスの期間

人も大勢、

他店も大勢、
それも、老舗、有名店、なんでもござれ、

初出店の条件ではないですね。

ハイ終了。

出来るだけ短くまとめました、
てか、もういいでしょう。

これから、シャワー、洗濯、要件済ませないといけないので・・・

気が向いたら、開いてる時間にも

出店計画でも書いていきたいと思いますか。

以前のメモも、どっかに行ってしまいましたし・・・

だいぶ長くなりましたが、とりあえずここまでは。

十九日目の日誌、終了

グレゴのおいしいレストラン（第20飯店舗）

ゝ海上店舗日誌ゝ 二十日目

担当 グレゴワール

十分な準備をして移動ができる事は、かなり恵まれているみたいだ。

つまり、荷が不十分だった。

ボス・ドミニクの飲み水・・・

「何というか・・・ 我慢なりません。」

「俺自身が ミネナルウォーターを買い忘れてしまうなんて・・・」

ボス・ドミニクがとても苦悩している。

というか よがり苦しんでいる。

昨日、俺とリリアースが推したレストラン、

このへんの一般的な食堂みたいな感じの店だった。

料理は・・・　　ウマかった。
具体的な事は書かない。

何というか

ボス・ドミニクを色々連れ回して　旅の支度とかをしてたら、

みんなの頭の中から、綺麗にフリーザーの中にある水の事だけが消えたみたいだ。

このことに関して、

一番精神的なダメージが大きいのが

ボス・ドミニクというわけだ（というかダメージはボスのみ・・・）

波行きかう海の上

ただ今、俺たちは船の中、

もうそろそろでシチリア島に到着するはず・・・

久々にヨーロッパの土地を踏むことになるが、

特に感慨深い事も無い。

・ 前の、仕事柄、よく色々なところに飛びまわっていたし・

今いるのは船の二等室、の子部屋・・・みたいなトコロにいる。

そこには今この日誌を書いている俺と、

精神的にグロッキーになったボス・ドミニク。

「水を積み忘れた」という失態と

「水が無い」で不安でかなりテンションダウン中。

いつもよりさらにテンション低いくらいだから、

あんまり大したことないみたいに見える。

リリアーヌはというと、

「船の中を見たくr（ry）」と、

半ば言葉になってない言葉を言いながら走り去って行って、
まだここに帰ってきてない。

彼女の事だから、

「立ち入り禁止！」と書かれた扉でも簡単にくぐって、

さらに機関部とかに入り込んでも、誰にも見つからずにここに戻ってきそうだ。

彼女もそれなりのスキルを持っているし……

何にでも好奇心旺盛、 色々と目に付く存在

でも気付かれずに移動したりして、

どこかに隠れたりしたら見つけ出す事が難しい……

なんか、子ネコみたいな特性だ・・・

あまり関係無いだろうな・・・

潜入のスキルと・・・

店の営業とは・・・

彼女がココに戻ってきたときは昼前ぐらい、

この船に乗ってから約十二時間ぐらい経ったかな？

「お昼どうするの？？」
その声とともに

リリアーナが勢いよくドアを開け、そのせいで ギチィ と蝶々が
いが音を立てた。

三人ともその音に過大に反応してしまい

三人とも腰を低く落とした体勢となった。

顔を見合わせる俺とドミニク、

リリアーヌはお腹抱えて笑ってた。

その後、ボス・ドミニクが

「昼食はどうしますか？

選択肢は この船の食堂で食べる

車に戻って何かこしらえる

食べない

から選んでください。」

て言っていたが、

「ボス」 食べない、は反則でしょ。

あと車のところには戻れないようになってたよ。

階段にロープ張ってたよ。」

という言葉によって、

ボス・ドミニクの表情がどんどん暗くなっていった。

「つまり・・・ ここでもやっぱり出費を」

「クソっ・・・ ハイジャックしたくなりましたよ・・・
」

ボス・ドミニク・・・ とにかく落ち着いて・・・

昼食後、まあまあ落ち着いてきたドミニクが、

「さっきのは冗談のうちですけど、

ぼちぼち本気で資金の事を考えないといけませんよ。」

「お金、俺らの生活費でかなり消耗してますよ。

ちょっとは考え直さないといけないぐらいに・・・」

うん、お金、

収入無いもんね、俺ら。

ドミニク「何始めるにも、」

リリアーナ&俺

」

「金次第・・・

まあそのとおりだけど、

ハモる必要無いよね。

今日の日誌
終わり

グレゴのおいしいレストラン（第21飯店舗）（前書き）

はい、時間が開いてしまいました。

この二連続の三連休中に、十分に時間があったはずなのに

それでも一部しか投稿できなかった事が

自分自身、見苦しい限りです。はい。

グレゴのおいしいレストラン（第21飯店舗）

〽シチリア上陸店舗日誌〽 二十一日目
担当 リリアーナ

不満です、私はすごく不満です。

綺麗な景色

まわりはぐると観光地みたいな風景、

でもそれを車内から流しながら眺めるだけ・・・

石造りの神殿も遠くにチラツと見えた、よく分かんなかったけど・
・

どこことなくイスラム風な建物も見えた、そしてよく分からなかった・・・

なんかドワァツ ってなった地形はよく見えた。それしかちゃんと見れなかった。

てか昼食のときだけじゃん！！ まともに停まったの！！

もうー！何ナニ？

このまま綺麗なシチリア島を、直線と真ん中最短距離で突っ切ろう
としてんの？

いくらなんでもボス・ドミニクでもそれはいくらなんでも

”無粋”だ！よ！ね？

リリアーナからそんな言葉を聞くとは思いませんでした。

‘粋’も何も、ココには用事もないので急ぐって

最初から言ってたじゃないですか。

b y ドミ

ニク

短く書くけど昼食はグレゴのメニューで

以前調達した羊肉のミート缶とトマト缶を使った鍋みたいな料理だ
った。

香料とかスパイスとかがすごくバランスよくて、
もちろんとても美味しかった。

やっぱりグレゴは偉大だよねー

ボス・ドミニクにも色々で見習ってほしいものだね。

「激しいボスのチラ見発生中」

うん、適材適所って言葉があるんだよね・・・

ボスも私もグレゴもね。

食事の後は三十分くらい散歩してこようと、

ボスに許可をとってから散歩してきた。

勝手に飛び出して後でうるさく言われるのも嫌だし・・・

さてお散歩

帽子かぶってお散歩、

やっぱり日の下を歩くのは気分がいい。

軽く吹く風が気持ちいいし

ここのぱつとひらけた景色も素敵だし、

ちなみにグレゴは食事の後片づけしてて来なかった、

手伝ってあげとけば良かった・・・

ボスはたぶん理由なく車の中に引っ込んだ。

まったく、人間もたまには太陽の下に出ないと体調悪くしちゃうよ。

ボスなら、

「大丈夫ですよ 慣れてますから・・・」とか

ど・・・

言いそうだけ

いやもう、帽子の女の子が日の下で散歩って、

何かの絵のモデルにでもなった気分で歩いてたら、

遠くの方から、

銃声が聞こえてきたんだもん・・・
た・・・
なんかすごくガツカリし

私のショットガンの音だった。

三十分経過を知らせる合図のつもりなんだろうけど、

どうにも雰囲気ぶち壊しで帰る足が遅くなった気がする。

戻ると、

「四十分の遅刻ですよりリアス。」

なんだか最近時間に厳しくなったような気がするよ、ボス・ドミニク。

まあなんというか、

この前までよく使ってた私の銃が、鐘か鈴のような扱いを受けている事が

なんか微妙な感じです。

「ところでなんで私のショットガンで私を呼ぼうとしたの

そんな廻りくどい事しなくてもちゃんと帰ってくるよ。」

「予定の時間どうりに帰ってきたのなら別にこんなことしてません。

ただしグレゴが少しわたわたしてしまして、

、ちゃんと帰ってくるかな、とか言っていたもんですから、

、何なら照明弾でも撃って呼びましょう、って事になりました。」

うんうん、私を心配しての事なんだね、

[illegible]

•
•
•
•
照明彈？
？

(現時刻
P
M
0
2
..
1
2)

「え、なにソレ？なんでそんなもん撃ったの？」

この弾ってそうそう手に入るものでもないから、

あのボス・ドミニクがこんな簡単に撃つ事にもものすごい驚いちゃった。

「いやいや、

前だったらこんな捨てるような使い方しませんでしたよ。

これから先使うようなことが無いならと思ひまして・・・」

うんまあ、

前の仕事みたいに、

暗闇のなかでショットガン撃つ事も無いだろうし・・・

嫌がらせみたいに敵のアジトに打ち込んだりすることも無いだろうし・・・

まさか私たちのライバルの店に撃ちこむわけ無いもんね・・・

なんだか知らないけど納得しちゃった私でした。

ところでところで！

意外と、（2人とも）過保護なところがあるんじゃないかな、なんておもう一日でした。

今日の日誌、おしまい

グレゴのおいしいレストラン（第21飯店舗）（後書き）

作中の12ゲージ 照明弾は自分の中のフィクションです。

ある種の特殊弾をチラホラ考えた結果、無事作中に捻じ込むことができました。

ドミニク一行はこれからもたぶん装備を乗せたまま旅を続けますが、

シチリアからイタリア本土入りするときに少し、

彼らの移動の手の内を書きこもうと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8636r/>

グレゴのおいしいレストラン

2011年11月15日03時16分発行